

CIMC を介した 5520 8540 WLC へのコンソールアクセス

内容

[概要](#)

[背景説明](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[設定](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) を介したコンソールアクセスの設定手順について説明します。

背景説明

ワイヤレス LAN コントローラモデルの AIR-CT5520-K9 および AIR-CT8540-K9 は、それぞれ Cisco UCS サーバ C シリーズの C220 および C240 に基づいています。したがって、CIMC ユーティリティを使用して電源、メモリ、ディスク、ファン、温度などの低レベルの物理部品を編集およびモニタリングでき、ワイヤレス LAN コントローラ (WLC) へのリモートでのコンソールアクセスも可能です。

現時点では、コンソールアクセスには、vKVM のほか、キーボードやモニタなどの周辺機器を VGA ポートに接続する、直接またはコンソールサーバ経由で RJ45 ポートを使用するという選択肢があります。

- vKVM コンソールと VGA に接続された外部モニタに、「Cisco Bootloader が Stage2 をロードしています (Cisco Bootloader Loading Stage2...) 」と表示されます。

このように表示されるのは、WLC がこれをサポートしていないためです。『[Cisco 5520 および 8540 ワイヤレスコントローラトラブルシューティングガイド](#)』を参照してください。

- WLC に物理的にアクセスできない場合、RJ45 ポートは必ずしも実現可能なソリューションではありません。
- コンソールサーバは、リモートからアウトオブバンドでアクセスするための選択肢にもなり得ます。

RJ45 コンソールポートにアクセスできない場合、またはコンソールサーバがない場合は、この選択肢が適しています。

前提条件

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

- AIR-CT5520-K9 は、MSE、CMX といった他の任意の UCS-C アプライアンスとともに使用することもできます（ただし AIR-CT8540-K9 はこの限りではありません）。
- PuTTY などの任意の SSH クライアント

アプリケーション

- パスワードの回復（ソフトリロードには「reset system」コマンドの代わりに「restart」コマンドを使用）。
- コンソール経由でのみ受け入れるコマンドの使用。

注:Serial over LANの制限事項。SoL を使用するには、サーバコンソールに次の設定が含まれている必要があります。

- フロー制御なし
- SoL に設定されたのと同じボーレート（9600 bps）
- VT-199 端末タイプ

設定

設定

1. CLI を介して WLC で CIMC を設定します。

```
(Cisco Controller) >imm address 10.0.0.10 255.255.255.0 10.0.0.1
(Cisco Controller) >imm username admin password Cisco123 Cisco123
(Cisco Controller) >imm summary
```

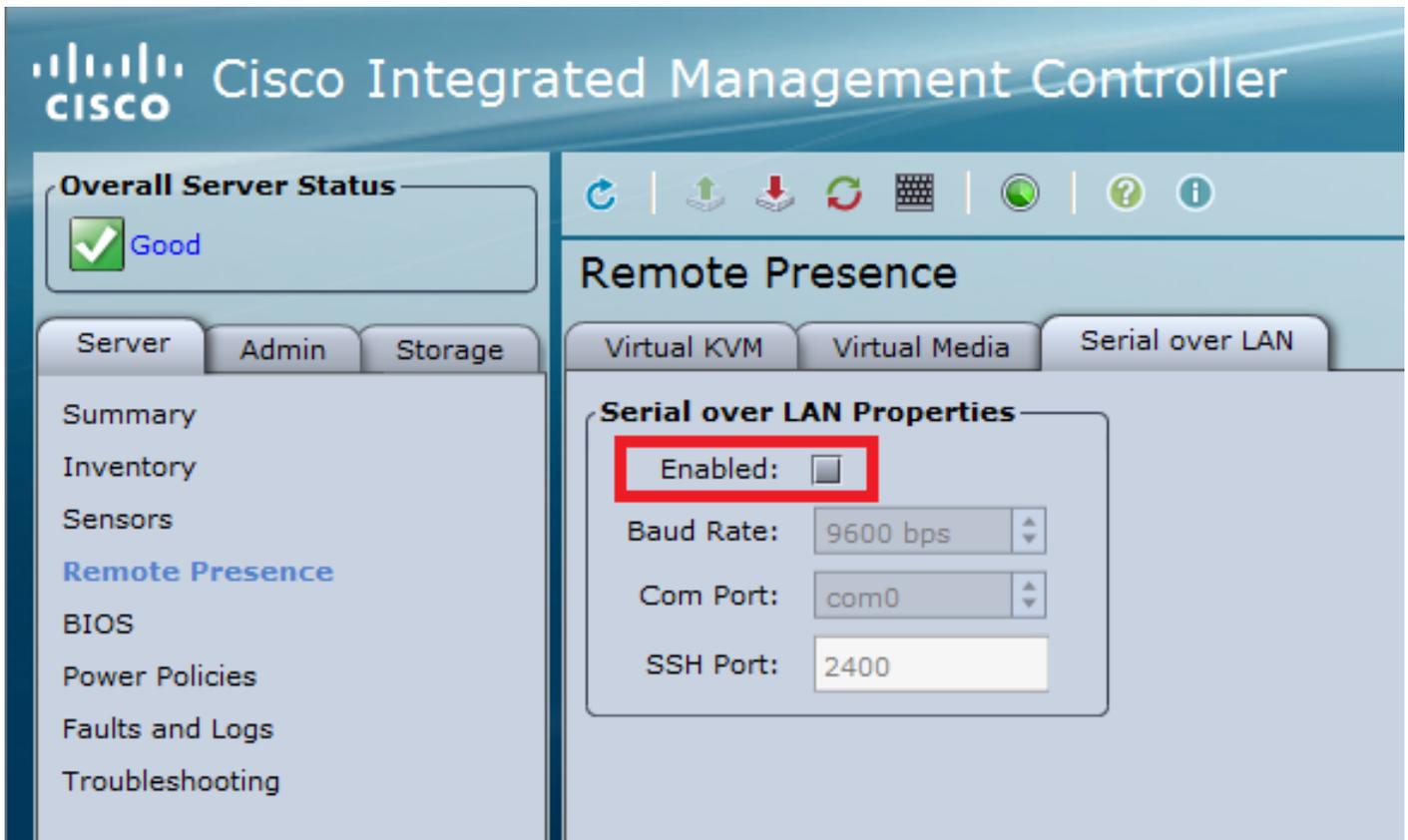
This will take some time...

```
User ID..... admin
DHCP..... Disabled
IP Address..... 10.0.0.10
Subnet Mask..... 255.255.255.0
Gateway..... 10.0.0.1
```

[『UCS C シリーズ サーバ用に CIMC を設定する』](#)、および [『ブートアップ時にコンソールから CIMC IP を設定および表示する』](#) の各記事を確認してください。

2. WLC で「Serial Over LAN」が有効になっているかどうかを確認します。

- GUI で、[サーバ (Server)] > [リモートプレゼンス (Remote Presence)] > [Serial Over LAN] の順に選択して CIMC にログインします。



- これは、WLC の CLI でも確認できます。

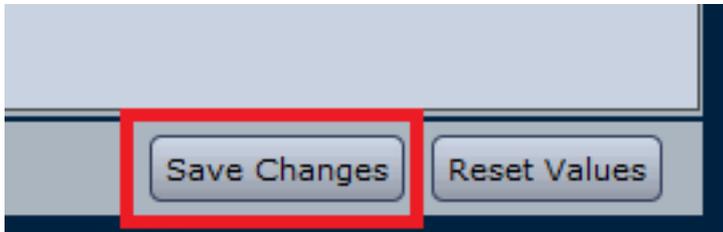
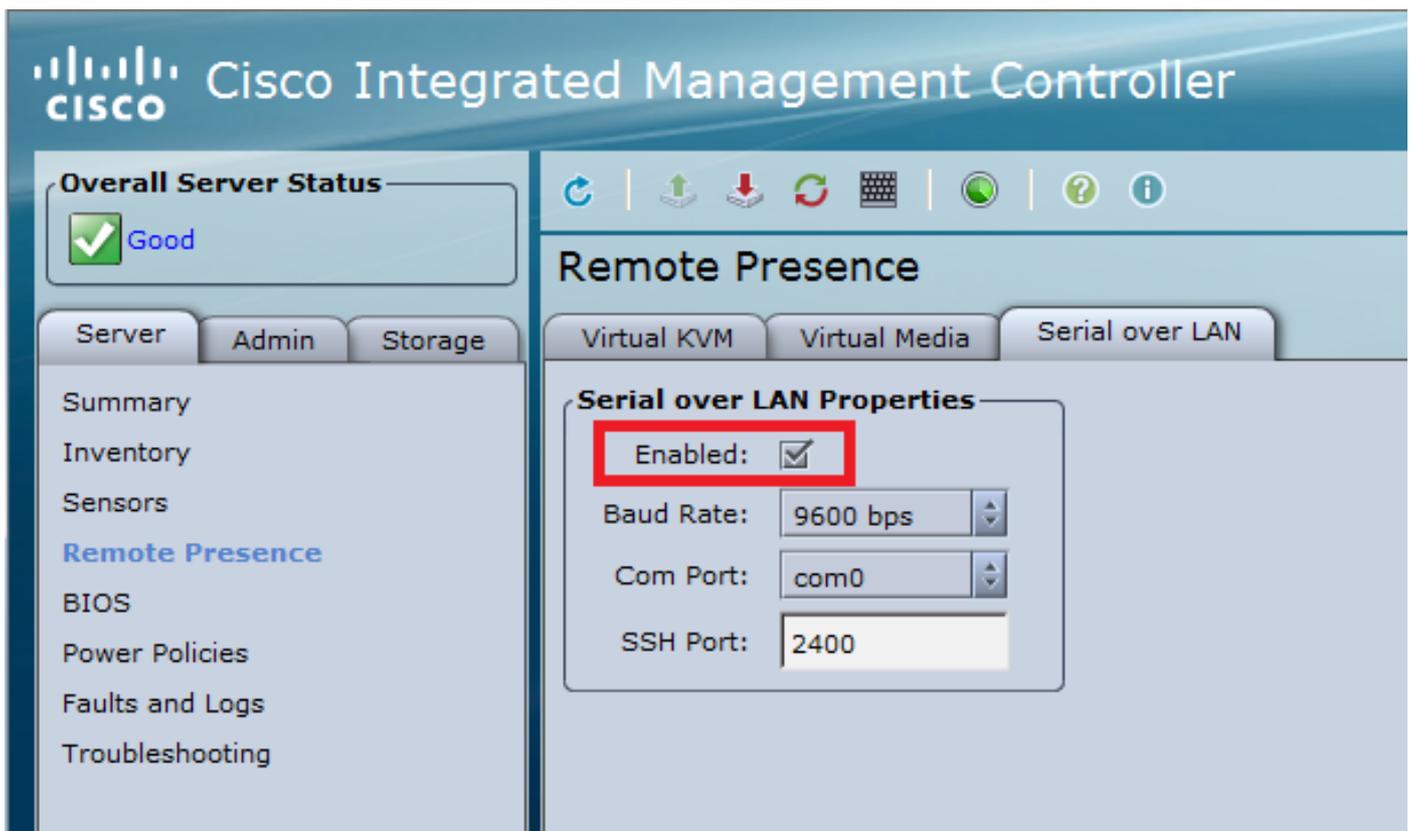
```
>show imm chassis sol-info
```

```
Set in progress : set-complete
Enabled : false          !!!! DISABLED
Force Encryption : false
Force Authentication : false
Privilege Level : USER
Character Accumulate Level (ms) : 50
Character Send Threshold : 201
Retry Count : 7
Retry Interval (ms) : 500
Volatile Bit Rate (kbps) : 9.6
Non-Volatile Bit Rate (kbps) : 9.6
Payload Channel : 14 (0x0e)
Payload Port : 623
```

3. Serial Over LAN を有効にします。

注:Serial-over-LANが有効な場合、すべての外部コンソールが無効になります。つまり、物理コンソールインターフェイスは COM0 にマッピングされますが、SoL はデフォルトでシリアル接続に COM0 を使用するため、有効にすると物理コンソールポートが非アクティブになります。COM0接続を解放する場合：COM1でSoLを使用するか、CIMCからSerial Over LAN機能を無効にできます。

- CIMC にログインし、[サーバ (Server)] > [リモートプレゼンス (Remote Presence)] > [Serial Over LAN] で
チェックボックスを有効にし、変更を保存します。



- CLI の場合

CIMC IP アドレスへの SSH セッションを開き、以前に設定したログイン情報を使用してログインします。

```
# scope sol
/sol # set enabled yes
/sol *# set baud-rate 9600
/sol *# commit
```

```
/sol # exit
# show sol
```

Enabled	Baud Rate(bps)	Com	Port	SOL	SSH	Port
yes	9600	com0	2400			

SoL SSH ポートを変更して、そのポートとの接続をリモートで確立できます。選択したコンソール接続として COM0 が表示されていることを確認します。表示されていない場合はコマンドで変更します。

```
/sol *# set comports com0
```

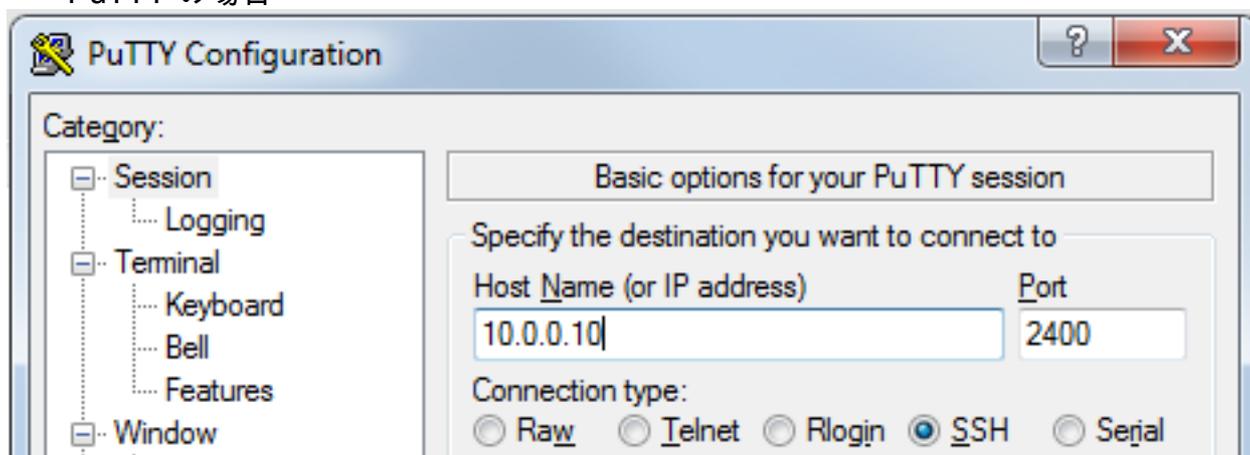
4. CIMC 経由で WLC のコンソールにアクセスします。

```
# connect host  
CISCO Serial Over LAN:  
Press Ctrl+x to Exit the session
```

```
User:admin  
Password:*****  
(Cisco Controller) >
```

コンソールには、CIMC で設定された IP アドレスと SoL SSH ポートを使用して直接アクセスすることもできます。

• PuTTY の場合



• ルータの場合

```
#ssh -p 2400 -l admin 10.0.0.10
```

• Linux/Unix の場合

```
#ssh -p 2400 admin@10.0.0.10
```

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。